

北井門遺跡 5 次調査

所在地 松山市北井門三丁目 3 9 8 番 6 の一部(包蔵地No. 1 2 1 井門遺物包含地)
期 間 平成 2 2 年 5 月 1 7 日～2 2 年 6 月 1 6 日
面 積 約 1 2 6 m²
原 因 個人住宅
備 考 国庫補助
担 当 相原 浩 二・西村 直 人 (文化財課)

概 要 調査地周辺には、周知の埋蔵文化財包蔵地が数多く知られています。北井門町内では、これまでに 1 次～4 次の調査が行われ、弥生時代後期後半(2 世紀末～3 世紀初頭頃)～古墳時代後期(6 世紀前半)にかけての集落遺跡が確認されています。今回の調査では、弥生時代後期後半の^{たてあなじゆうきまあと}竪穴住居跡 1 棟が見つかりました。竪穴住居は南壁、北壁の一部と西壁は擁壁工事によって失われていましたが、住居全体の約 2 / 3 を調査する事ができました。

竪穴住居の平面形は、角が丸い方形を呈することから『隅丸方形』と呼ばれる形をしています。検出規模は南北 5. 5 6 m、東西 4. 4 6 m、壁高(深さ) 0. 1 8 m を測ります。住居内施設として 4 本の柱穴と炉址が見つっています。遺物は住居の埋土より壺、甕、鉢のほか、土製の^{ぼうすいしゃ}紡錘車ⁱが出土しました。そのほか埋土中には、炭や焼土が多く見られました。

まとめ 今回の調査で検出した遺構は竪穴住居 1 棟のみでしたが、北井門遺跡における弥生時代後期の集落の広がりを確認する事ができました。また、竪穴住居の平面形態や住居内施設の構築法や廃絶状況など竪穴住居に関する貴重な情報を得る事ができました。



写真 1 竪穴住居検出状況(北西より)



写真 2 竪穴住居調査状況(北西より)

ⁱ 紡錘車・・・糸をつむぐ際に用いる道具。弥生時代から普及したもので大陸からの^{はたお}機織り技術の影響。形は平らな円盤形、^{えんすい}円錐台形、^{そろばんたま}算盤玉に似たものがあり中央に^{あな}孔が貫通する。木製、石製、土製、骨製などがある。